

会話ロボットによる高齢者医療のサポート

九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科竹澤真吾研究室

株式会社メディカルシード

研究目的

株式会社ビジネスデザイン研究所が作成した会話型ロボット（イフボット）を、認知症などを呈する高齢者との会話促進に使用し、高齢者からストレスを少なく、また、日常の生活に楽しみを与えることを目的としています。

キーワード：会話型ロボット、高齢者、医療福祉、認知症

研究方法

医療法人幸世会介護老人保健施設セントラル堀田（名古屋市）にて認知症の高齢者などを対象に、本年5月よりイフボットとの会話による認知度改善を試みました。

結果および考察

現時点では十分な結果が得られていませんが、繰り返しの質問にイフボットがきちんと対応することおよび簡単なクイズやなぞなぞをイフボットが出すことによって、対象者の思考回路が活性化される傾向にあると思われます。



会話型ロボット
イフボット

今後の方針

会話対応に関しては、音声認識率が未だ低いこともあり満足な応答がしづらいものの、ある一定の範囲に割り切ればそれなりに使い道はあると感じられます。したがって、今後は認知症高齢者に特異的な会話パターンや昔のことを繰り返し聞く内容などを盛り込み、高齢者医療の一助となるべく開発を進めていく予定です。